

ざるよこそいふ所。實マコトあらむも知らざといはぐりては、  
比ヒも侍従の下小行と書るを位署の例タテマに乖ヒる。いづ  
う己オノが位署成書違ふるも、いづるべき。あまらの違ふ  
まて。その偽イハレ妄書マコトある事著イハレし、いづるを也。あくま又そ  
れ文書の添書ソヘガキ。経房卿の事成。元仁元年壬申八月七日逝。  
行年五十八歳とあるも違ふる。そをば、元仁元年の干支  
ハ甲申なるを。壬申と書る。又此卿の薨年ハ、系圖小正治二  
年薨五十八歳とある。辨官補任了。嘉應二年の時ハ二十  
八歳とある。小符カネハ、件カネの添書もまゝと妄説なり。かく  
て又其文の奥ハ、世嗣の名書あり。其ハ始ハ経實と擧る。左

近行年八十三歳。文永八年未三月二日。と書てそれより十  
三代ハ當りて。経久久右衛門五十二歳。天正十五亥四月十  
八日。と代々小同コト例タテマに書繼たるを、いづり記せり。但レ十一  
下シめ、市郎兵衛とあり、いづる。その経實の譜ハ、左近と書る  
記し、没年成あるを、いづる。左近と書る  
ハ、経房卿の子なりといはる。左古麻呂の事とき、いづるべ  
記せるも、いづる。さて其経實ハ、その建保五年ハ書る本文  
了。我子左古麻呂廿六歳と記したる人あり。文永八年ハ  
齡八十歳なるべきを。譜ハ八十三歳と書るも違ふる。いづ  
其代々の中ハ、経春が没年成文禄二亥。と書るも、まゝと違る  
也。其年ハ干支ハ癸己なり。又二代と十三代とハ、  
経久といふなり。



殘櫻記後書

海ありと思ふ人のむくううの太刀もあつてこの道ふれ  
用ひ見ふ書と留筆も海とて残考も海とて残考も海とて  
の道を法くさぬ事なれうう此れ真心を繋けるあふ  
信友ぬけうれあるは終る此うむう記の一書心の  
海とてようかゝる事のあるはぬさうはくうもすけ  
つはあつてうひううさうさうさうさうさうさうさう  
かもあつてうひううさうさうさうさうさうさうさう  
もあつて事も法くまぬかうさうさうさうさうさうさう  
海ありううさうさう天地の間ありうも尊くうさうさ

あま天は御ある一はその御由一の一事もたはる  
あまされたる中みは見るもかぬしくよむもかしく  
く身ふあみもさうなむおあもるうけの御事この神は御  
あまこれ吉事禍事何事とよとらぬしく思ふことちち  
き世の人れ心ぬはのりあまは事から終るやうこ  
せ海らえとらつる思ふよむむけりけあそもしく大伴佐  
伯の氏と遠つ神世より朝廷をぬける武士の家あるは  
はのあちほひたりこのやれ家々もうけあまのり書れ道  
尊とあまの事いきて世の人れ心あまの御心ぬぬ  
あまの御心ぬぬあまの御心ぬぬあまの御心ぬぬ

心あらぬいとさるひ出陣一を来ていもかしくあま大御中  
らひは雲霧れぬきと立る事一を大御かしくみよはのり  
あまの御心ぬぬ出来とむつましく仕らまらる武士と  
もあまの御心ぬぬあまの御心ぬぬあまの御心ぬぬ  
さうぬたう引りかき何か一は氏人く終る一の氏人とそ  
あまの御心ぬぬあまの御心ぬぬあまの御心ぬぬ  
ひはく君の御心ぬぬあまの御心ぬぬあまの御心ぬぬ  
ちあひあらしむ海ぬつの人たりはあまの御心ぬぬ  
あまの御心ぬぬあまの御心ぬぬあまの御心ぬぬ  
あまの御心ぬぬあまの御心ぬぬあまの御心ぬぬ

もあかき〜上下の心をゆるりゆるり入るてはさかちら  
う大御心も大御心である世はく鎌倉山の山風もさほの  
うら波吹ちらう終〜いさるう〜もゆりはるをほゆるり  
同〜さそ野の山下風も人よあさぬり吹ささる〜いとも  
か〜さき現津御神さあらうさあ〜成〜も遠つ島々よはふ  
まあ〜ささ〜奉る久方天つ日嗣もあちぬく風のほふ  
ほふはのらはき海〜〜大御安見殿よやまみし終ふ  
年月のほゆるりもぬくねる居立のちらきほひ〜さあら御心  
の〜あらう家高く品高き官人きちもあらの心成心とせは  
九重の都よありあのちら浪よあ〜よふち〜ち〜ある成

人も〜人もうらあ〜と志のふも猶あまのりあ〜も〜也  
か〜さ〜ぬけのほゆるり〜の〜軒の雨露かけさ〜もい  
ゆるり〜さあそこの御世は御ありさぬよあむあけけるか  
くま又これ山下風のは〜さ〜も今の世の民草よて〜  
〜あ〜〜いら見え〜さあわきあまの武士さの〜うら〜成  
あら〜あ〜い〜と〜ら大御心あも今いのみうちほらか  
さ〜い〜い〜思わ〜さ〜さほひ〜さあ〜い〜さほひあるほ  
あ〜い〜あ〜る武士さの〜ち〜あ〜ら〜さほひ〜つ〜ひ〜う〜さあ山下  
風も〜ち〜ほらあ〜た〜はる成さ終〜い〜のある事あ〜い〜あ〜  
け〜さ〜あ〜ま〜の大御心の引〜い〜さ〜あ〜い〜ほ〜さ〜ある方

よそよらき花をばやしと名よあふ下根のさくさくは  
方よなひうき花ひと事おほき花のさあひと心やう  
あらくまか　　き事おみあがりちむらむと鎌倉山よ  
とりとんまは重遠つ島山ようはし奉り花とはのさうぬさ  
中おとあらひよあらしひふきあ　　と終うあらむのほき終  
小北南と二方よ大朝廷も立皇のれま　　と天の下  
西東風浪のさうれやむ時終くそまらうお年月終あむ終  
うあさうあむ此ふみよ志あされまらう　　野れう　　野  
のれく此山櫻花咲ちる春秋を終く神とも神とほ　　あさ  
御子さち大君さち真木たつあらし山中小あむ　　と

花谷よ友よふ鹿猿のしと御垣ふちあく若は　　山水の  
音波の　　朝由ふ　　あは聞あらしや終ひ　　さき木うられ  
う安美大御心もたう　　あかしら　　終ひ　　おはま　　と  
ひや　　きまの　　ぬきま終れや終あらしよむ　　のさ終ま  
しま　　あひう　　あられは　　と　　あ　　と  
もか　　け形　　と　　ま　　と　　あ　　と　　あ　　と  
るさう　　あ　　の　　終　　の　　御　　心　　と　　り　　あ　　の　　あ　　け　　る　　ふ　　と　　あ  
り　　と　　今　　か　　く　　此　　ぬ　　み　　よ　　あ　　る　　さ　　る　　事　　お　　跡　　見　　奉　　る　　あ　　も　　涙  
も　　袖　　ぬ　　と　　ま　　れ　　世　　の　　あ　　り　　と　　ぬ　　と　　あ　　と　　む　　と　　あ　　と　　さ　　と  
あ　　あ　　と　　と　　あ　　あ　　む　　あ　　あ　　と　　と　　あ　　あ　　の　　と　　あ　　の　　ら　　此　　と　　あ　　と

志多しぬしはあやも思ふ一はちつよへののお書しの書  
と法をいつて引せし言をきくをせらめらほくもあやよか  
しあに大御神寶天つ御志多しの八尺勾穂之五百津之御  
須麻流之珠の御幸の御座所を明らめりあやし奉らむ此  
真心よあむゆりけふ此本文はあらしを未つこのふあ  
つらへるあやくも又ある人よ答言ら終まるかきそ人の  
あけらむもそあくことわを明らめあしと世は中と吉事  
はの事此のちあひゆきく一かへあらし世のあやわを  
残もせやり得ら終くる事のあきくしあまかき書み形  
あやゆりける此も大平み見せふあらし世へのあむある

やふあ終らぬしは汝う心のうらそあ思ふうあふく一  
くきり書やうあしよしれり世の人の人よはくもあひ得  
るそ人よほしとある心とをあやあしあは書はのき  
あふようしあしとあしとあ思あしとあむあしとあむ  
又あえ心の一言とあきくしあらしとあ思ふあふく一  
此一あやあもあかへりあらしとああむあらしける

文政七年甲申八月廿八日

本居大平

伴信友翁著述目錄

- 一 長柄山風
- 一 神社私考
- 一 瀨見小河
- 一 中外經緯傳
- 一 假字本末
- 一 正卜考
- 一 鎮魂傳
- 一 驗杉稻荷神
- 一 蕃神考

在刻

- 六冊
- 六冊
- 四冊
- 六冊
- 四冊
- 三冊
- 一冊
- 一冊
- 一冊



- 一松、藤靡 藤原家血統 一冊
- 一竹榮抄 皇子諸王賜姓例 一冊
- 一若狹旧車考 一冊
- 一殘櫻記 明德後南朝官方之事蹟  
及神皇御勅座之事 二冊
- 一周易私論 一冊
- 一高橋氏文考 二冊
- 一和氣系圖附考 一冊
- 一表章伊勢日記附證 一冊
- 一上野三碑考 一冊
- 一宇知都志麻 神武中列之御事  
及平城帝之御事 一冊

- 一中臣被要解 一冊
- 一動植名彙 十冊
- 一源順家馬毛歌合注 一冊
- 一史籍年表 在列 一冊
- 一鈴屋翁年譜 附學道要語 一冊
- 一應聲考 同 一冊
- 一長谷寺縁起剝偽 一冊
- 一比古婆衣 二冊在列 廿一冊
- 一神璽三辨大刀契考 一冊
- 一八所御灵考 一冊

- 一八幡神考 一冊
- 一寶鏡秘證 一冊
- 一倭姬世紀古文考證 一冊
- 一佛神論 一冊
- 一真卷弓韞考 一冊
- 一射実私論 一冊
- 一神樂催馬樂私論 一冊
- 一神樂催馬樂歌奇語考 附風俗  
東歌 一冊
- 一獸肉塩湯考 一冊
- 一越前敦賀郡官社私考 一冊

- 一方術原論 一冊
- 一參考姓名錄抄 一冊
- 一和名抄国郡卿考證 一冊
- 一神社古縁起類集 一冊
- 一逸文風土記 一冊
- 一逸諸國國內神名帳 二冊
- 一古文書集 凡二十冊
- 一古文書抄出 八冊
- 一古唱集 一冊
- 一古文物小集 二冊